

令和4年度夏季企画展

山 伏

やまぶし

—佐久の修験 大井法華堂の世界—



木造役行者倚像 当館



一遍上人立像(複製)
国立歴史民俗博物館
(原資料 当麻山無量寺)



熊野那智参詣図曼荼羅(部分)
高圓寺

令和4(2022)年 7月9日(土)~8月21日(日)

長野県立歴史館

NAGANO PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

千曲市屋代260-6 Tel: (026) 274-2000 (代表)
<https://www.npmh.net/>

開館時間: 午前9時~午後5時(入館は午後4時半まで)

休館日: 月曜日(7/18は開館)、7/19(火)、8/12(金)

●交通案内 長野自動車道「更埴」ICから車で5分。

しなの鉄道「屋代」駅、「屋代高校前」駅から徒歩25分。

主催: 長野県立歴史館

共催: 佐久市・佐久市教育委員会

特別後援: 奈良県天川村

後援: 信濃毎日新聞社、朝日新聞長野総局、読売新聞長野支局、毎日新聞長野支局、産経新聞長野支局、中日新聞社、長野市民新聞社、市民タイムス、市民新聞グループ、長野日報社、南信州新聞社、NHK長野放送局、SBC信越放送、NBS長野放送、TSBテレビ信州、abn長野朝日放送、(一社)長野県ケーブルテレビ協議会、FM長野、FMぜんこうじ、屋代有線放送電話農業協同組合、(公財)八十二文化財団



公式ホームページ



Twitter

●観覧料

区分	企画展	企画展+常設展	常設展・講演会
一般	300 (200) 円	500 (400) 円	300 (200) 円
大学生	150 (100) 円	250 (200) 円	150 (100) 円

()内は20名以上の団体料金。

・高校生以下は無料です。

・障害者手帳(身体・精神・療養)の交付を受けている方と同伴の介護の方1名は無料です。

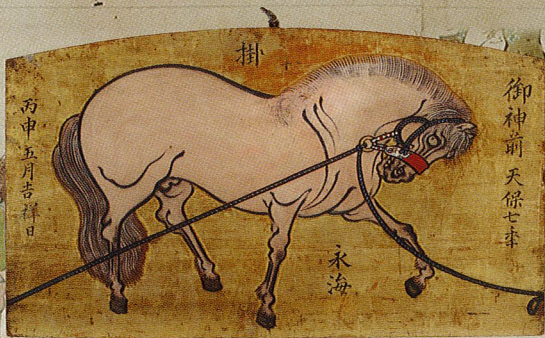
(手帳又は写しが必要)

・お得な年間パスポート(1,500円)も販売しています。

信濃国は山岳地帯で、古くから山岳信仰の盛んな地域で知られています。山林で修行する僧によって広められた山岳信仰は、わが国の古代社会において独自の発展を遂げた信仰形態のひとつで、やがて修験道へと展開しています。大井法華堂は本山派の佐久・小県地方の修験の道場として発展してきました。



日本最古の十一面観音菩薩立像
(飛鳥時代後期) 東京国立博物館
Image:TNM Image Archives



佐竹永海筆「奉納絵馬」当館



扁額「東照宮」当館



不動明王座像 当館



和宮から拝領した履物
当館

関連展示

■ 西川かおりイラスト展

「そこに根井氏がいた
一木曾義仲・義高と仲間たち」



■ 那智参詣曼荼羅絵解き展



関連イベント

■ 講演会 1 7月16日(土) 13:30~15:00

演題「江戸幕府の宗教政策と修験道」
講師 学習院大学名誉教授 高埜利彦氏

■ 講演会 2 8月20日(土) 13:30~15:00

演題「天台宗寺門派聖護院門跡と山伏の組織」
講師 岡山大学大学院准教授 徳永誓子氏

※ともに定員80名、事前申込み制(6月16日(木)から受付開始)



線刻蔵王権現鏡像 重要美術品
東京国立博物館
Image:TNM Image Archives



長野自動車道「更埴」ICから車で5分。
しなの鉄道「屋代」駅、「屋代高校前」駅から徒歩25分。

長野県立歴史館

〒387-0007 長野県千曲市屋代260-6 (科野の里歴史公園内)
Tel: (026) 274-2000 (代表) <https://www.npmh.net/>

*今後の状況により中止、延期、または人数制限等をおこなう場合があります。詳しくは当館公式サイトでご確認いただくか、お電話にてお問い合わせください。
お問い合わせ●TEL.026-274-3993 (県立歴史館文献史料課直通)

夏
季
企
画
展

山伏

— 佐久の修験 大井法華堂の世界 —

会期：令和4年7月9日(土)～8月21日(日)

共催：佐久市・佐久市教育委員会

はじめに



引導する山伏(「熊野那智参詣図曼荼羅」高圓寺蔵)

「山伏^{やまぶし}」とは、山岳で修行することによって超自然的な力を体得し、その力を用いて呪術的な活動をおこなう宗教者のことです。「山^ふに伏して修行する」ことからこの名前がつけられているように、山岳信仰と一体となったものです。この修行によって不思議な法力^{げん}(験)を得ることから「修験^{しゆげん}」とも呼ばれます。信州には霊山として畏れられた険しい山岳が多く、山伏も多く活動していました。

大井法華堂(佐久市岩村田)に伝えられた文書のうち800点余りは佐久市指定文化財に指定されています。また本尊などの仏具類もこれまで外に出ることはありませんでした。今回の企画展はそのほとんどが初公開のものばかりといえます。

はじめは「一遍上人」との出会い

木曾義仲の滅亡後、佐久大井荘へ入ったのは甲斐源氏小笠原氏で、大井氏を名乗ります。大井太郎^{みつなが}光長は将軍^{きんじ}に近侍する、まさに「御家人」でした。

弘安2年、光長は善光寺式阿弥陀如来三尊像を建立し落合新善光寺の本尊として寄進したといえます。一遍は光長と姉のいる館を訪れ、踊念仏をおこないます。姉は随喜^{ずいき}し極楽往生^{ごくらくおうじやう}を遂げます。

善光寺の二河白道^{にがびやくどう}図に感得したという一遍と阿

弥陀如来信仰は切り離せません。また、一遍はその後熊野本宮^{ほんぐう}で阿弥陀如来の仮の姿である熊野権現から夢告をうけており、熊野信仰も一遍の思想の根幹となります。そして光長の末子源覚は熊野信仰に帰依し草堂を建立しました。これが修験道大井法華堂の始まりです。初代一遍と2世他阿の行状を描く「遊行上人^{ゆぎやうしやうにん}絵巻」には、大井館と考えられる踊念仏の場面が描かれています。太郎と思われる武士の右端には一族の修験者の姿も描かれています。これが源覚の可能性ががあります。

役行者とは

修験道の開祖は役行者^{えんのかぎやうしや}(634～701)です。後世きわめて超人的な法力を強調した説話が語られますが、実在した人物と考えられています。

役行者^{れいげんたん}の霊験譚を記した書物には、浅間山の記事も記されています。役行者は修行した吉野山から大峯(奈良県)に石橋を架けるため、全国の霊山にいる天狗に命じて、鬼を駆り立てました。信濃では浅間山、御嶽山、戸隠山がこれにあたりま



大井法華堂役行者倚像(当館蔵)

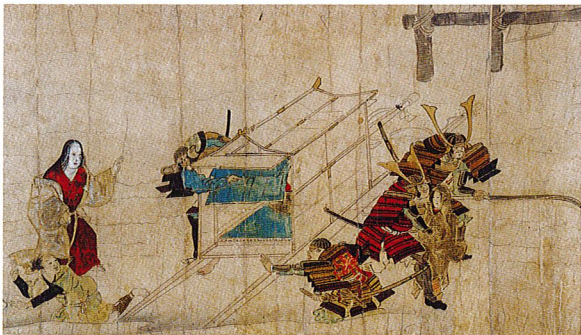
す。浅間山が修験の修行場であると認識されていたのです。室町時代なかごろには、浅間山を仰ぎ見ることのできる場所に多くの修験や信者がいたことがうかがえます。

信者は熊野などの修行地へ訪れるため、特定の修験者と契約します。修験者は「先達」となり、信者を「檀那」として権利化しその拡大を図りました。大井法華堂は次第に佐久・小県地域の修験者の権利を集積し、末端の山伏を「同行」として支配し、この地域の山伏の頭となりました。

聖護院門跡

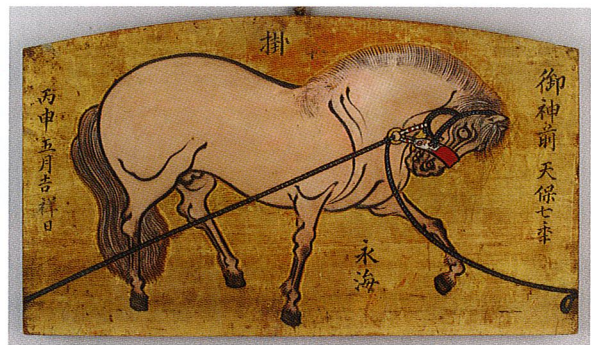
天台宗聖護院門跡は熊野三山（本宮・那智・新宮）を治める中心となると、全国の修験者を組織化し、修験道本山派を確立しました。門主の入峯（熊野・大峯などへの修行登山）には全国の同行に協力させるため、法華堂などの有力山伏を先達に補任しました。役銭などを徴収して上納するシステムが確立していきます。

大井氏の勢威



結城合戦絵詞（部分 重要文化財 国立歴史民俗博物館蔵）

大井法華堂が地域のなかで勢力を拡大した理由は、その外護者である大井氏の力によることはいうまでもありません。とくに15世紀には、大井氏は鎌倉府鎌倉公方と結びつきました。大井持光は公方足利持氏の子の乳母父となつたとされます。永享の乱で持氏が死んだ際には遺児万寿王を佐久に匿いました。結城合戦で兄春王・安王が殺されたため、万寿王が鎌倉に帰還し公方足利成氏となりました。法華堂文書には、大井氏が関東に所領を有していた由緒を記す書付が残されています。



神馬奉納額（佐竹永海筆 当館蔵）

戦国～江戸時代の大井法華堂

戦国時代には武田信玄が佐久地域を支配し、国人大井氏は衰退しました。山伏たちも武田家のもとに再編成されました。山伏は特定の陣営に属さないため客僧と呼ばれています。戦国大名は、客僧に書状をもたせ、相手側陣営との交渉に活用していきます。また戦時には信玄の勝利のために祈祷するように命じられています。

江戸時代になると大井法華堂は佐久郡年行事職に補任され、聖護院門跡の院家勝仙院の支配を受けました。歴代当主はたびたび大峯や熊野に入峯して加持祈祷をおこないました。当時の日記は修行関係の記録としてたいへん貴重です。珍しい東照宮や護摩堂厨子など、興味深い仏具類もぜひご鑑賞ください。

おわりに

修験道は明治6年に廃止されました。大井法華堂の文書や仏具類は、近代以降も大井家や地域の皆さんにより大切に守られてきました。

厳しい自然環境に立ち向かうのではなく、それを受容し共生していこう

とする修験道の考え方は現代社会の中ではむしろ見直されているのではないのでしょうか。この企画展で皆さんにも考えていただければ幸いです。

（村石正行）



大井法華堂東照宮額（当館蔵）